

カブトムシの森 林床植生調査の報告（13/4/7 実施）

カブトムシの森のA地区では、2002年～2003年にかけて林床の植生調査が行われていました。これは、当時、20年後の森の姿を見据え、管理計画を立てていくために行われたものでした。それから約10年が経過し、カブトムシの森の様子も様変わりしました。クヌギは成長し、森の中にたくさんあった常緑樹はかなり少なくなりました。そこで、私たちが行っている森の保全活動で林床植生にどのような影響を与えたのか？今後、どのように管理していけばいいのか？といったことを考えるために、林床植生調査を再び行うことにしました。詳細は以下の通りです。

＜方法＞

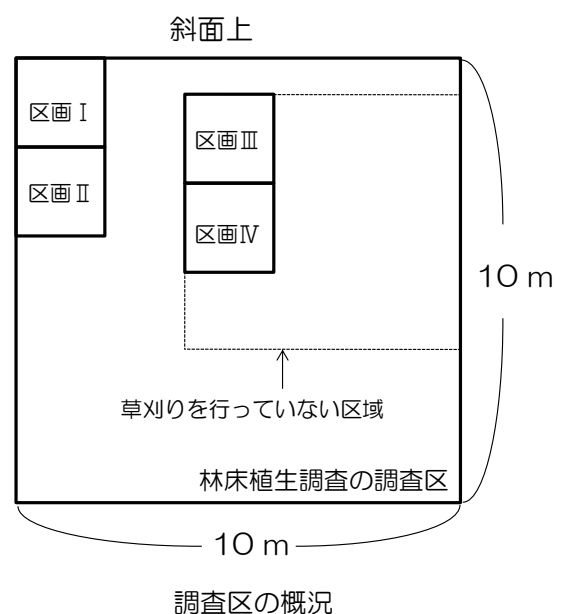
1. 10年前の植生調査は10m×10mの調査区の中で行われていましたが、残念ながら、場所を示す杭などは残っていませんでした。そこで、過去の資料などを基にして、ほぼ同じ場所に新しく10m×10mの調査区を設定しました。
2. 調査区の中に詳細な調査を行う2m×2mの区画を4つ設定しました。10m×10mの調査区と、富永さんが行っている調査区（草刈を行わず、昆虫などを観察する調査区）が重複していたので、その調査区を利用する形で、2つは富永さんの調査区の中に、2つは外に設定しました。
3. 2m×2mの区画それぞれについて、出現した種と蕾・花・果実の有無を確認し、それぞれの植物について被度の計測を行いました。
4. 10m×10mの調査区の中で蕾・花・果実のつけている種類を記録しました。

＜結果と今後の課題＞

次のページには調査表を示しています。2002年の調査と比較して、出現種に大きな差はなかったのですが、出現種数は少なくなっていました（半分程度）。今後、数年間同様の調査をして、要因を探っていきたいと思っています。また、反省点としては、時期が早くて花がついておらず、植物の同定が難しかったことが挙げられるので、来年は時期を調整したいと思っています。また、落ち葉に覆われていると植物がわからないので、来年は冬に調査区だけ落ち葉を掻いておきたいと思っています。（篠原・柴戸）



調査の様子



カブトムシの森 林床植生調査

日付: 2013/4/7

実施者: 柴戸、小川、篠原

		被度の階級値				蕾・花・果実
		区画 I	区画 II	区画 III	区画 iv	区画 I ~ iv
フユイチゴ	バラ科	2	1	1	1	蕾・花・果実
チヂミザサ	イネ科				+	蕾・花・果実
カキドオシ	シソ科	+	+	+	+	蕾・花・果実
ナキリスゲ	カヤツリグサ科	1	1	+	+	蕾・花・果実
キクムグラ	アカネ科	+	+	+		蕾・花・果実
ダイコンソウ	バラ科	+	+	+	+	蕾・花・果実
スイカズラ	スイカズラ科	1	1	1	+	蕾・花・果実
ミツバアケビ	アケビ科			1	+	蕾・花・果実
イネ科の1種			+			蕾・花・果実
オランダミミナグサ	ナデシコ科	+				蕾・花・果実
ナガバタチツボスミレ	スミレ科			+		蕾・花・果実
ヘクソカズラ	アカネ科	+	+			蕾・花・果実
ネザサ	イネ科	1	+	2	1	蕾・花・果実
サルトリイバラ	サルトリイバラ科					蕾・花・果実
オカウコギ	ウコギ科			2	1	蕾・花・果実
シダの1種		+				蕾・花・果実
キヅタ	ウコギ科	+	+	1	+	蕾・花・果実
クサイチゴ	バラ科			+	+	蕾・花・果実
ヤマハッカ	シソ科				+	蕾・花・果実
タブノキ	クスノキ科		+			蕾・花・果実
ヨモギ		1	1			蕾・花・果実
キンポウゲ科の一種		+				蕾・花・果実
ツルの何か			+			蕾・花・果実
イヌツゲ			+			蕾・花・果実
エゴノキ			+			蕾・花・果実
クロキ				+		蕾・花・果実
ハルジオン or シュウブソウ				+		蕾・花・果実

2.コドラート(10m×10m)内で花・果実をつけている植物を記録

マムシグサ、カキドオシ、ムラサキケマン、クサイチゴ、キクムグラ
ツボスミレ?、ヤブニンジン?、コハコベ(蕾)

<被度の基準>

3/4以上を覆うと 被度5
1/2~3/4を覆うと 4
1/4~1/2を覆うと 3
1/10~1/4覆うと 2
10%未満1%を越えると 1